



論座 > 文化・エンタメ > 記事一覧 > 記事

文化・エンタメ

## 大坂なおみのCMとホワイトウォッシュの底深い闇

赤尾千波 富山大学人文学部人文学科教授(アメリカ文学・文化専攻)

ホワイトウォッシュ | 大坂なおみ | 黒人差別

2019年02月13日



### 歴史の改ざんは、もう一つのホワイトウォッシュ

さらにホワイトウォッシュには、（不都合な出来事や史実を）なかったことにし、覆い隠すという意味もある。歴史を「白く塗り替える」とは、ということだろうか？

たとえば、ロックンロールはリズム・アンド・ブルーズなど黒人音楽が元であり、カントリー・ミュージックなどと融合して大流行に至ったのだが、それをエルビス・プレスリーら白人がゼロから創出したかのように語ってしまうのが、ホワイトウォッシュ。オリジナルの歴史を取り除いて、白人だけの功績であったことにしてしまう行為を指すのである。

アメリカの学生が学ぶアメリカ史の教科書には、ヨーロッパからのピルグリム・ファーザーズ（巡礼父祖）の新大陸上陸に始まり「白人だけが活躍した歴史」のように書かれているものがあるが、これもホワイトウォッシュである。こうした書籍では、白人の負の歴史——アメリカン・インディアンの虐殺と居住地への追い込みとか、アフリカから黒人を拉致し奴隷として虐待したことなど——は、控えめに記述されることが多く、これもまたホワイトウォッシュの一環である。

アメリカでは、ホワイトウォッシュはこのように様々なレベルで実践されている。そのたびに、批判がなされ、当事者からの「差別意識によるものではない」との弁明がなされ.....その繰り返りで今日に至っているのである。

### 編集部から

「論座アーカイブ」開設のお知らせ

2023年07月21日

論座の更新を終了いたしました  
サイトは7月まで閲覧できます

2023年04月26日

コメント投稿サービス終了のお知らせ

2023年04月21日

### 最新ランキング 週間ランキング

-  渡辺麻友の電撃引退に納得。彼女は「アイドルのプロ」だけじゃなかった
-  死後の世界をめぐる仏教と人々の“ズレ”～人は死んだらどこへ行くのか？
-  新潟親子遭難死は救えた命かもしれない
-  手記・上高地でクマに襲われた私の経験
-  在NY、新型コロナ感染体験記——「軽症」だったが初めて死を意識した
-  [1] 冷戦下、断絶と疎外の社会に変革を告げた～「サウンド・オブ・サイレンス」
-  事故原発に首相、作業員「怒ってるよ、菅直人、何しに？」
-  ダムに沈んだ村に最後まで住んでいた一

## もう一つの大坂ホワイトウォッシュ

このようなあざとい例に比べると、日清CMで大坂が白く描かれたケースは悪意が感じられず、レベルが違うという気がしてくる。だがやはりここは、「世界のホワイトウォッシュの文脈」の中でこの問題を見てみるべきであろう。ここで、もう一つの事例に注目したい。

実は彼女のホワイトウォッシュは、今回の日清CMが初めてではない。2018年のUSオープン決勝戦で、米セリーナ・ウィリアムズ選手が審判に対し抗議、ラケットを地面に叩きつけるなど態度を荒げる一方、大坂は冷静なプレーを続けて優勝に至る——この出来事は、各種メディアに取り上げられた。9月の豪『ヘラルド・サン』紙に掲載されたマーク・ナイトによる戯画——審判に抗議するウィリアムズは「アグレッシブな黒人女性」ステレオタイプとして大きく描かれ、その後ろに小さく描かれた大坂は白人に見える——を批判する記事が『ワシントン・ポスト』紙などに載ったのをご記憶の方も多いのではないだろうか。



ツイッターで炎上したナイトの戯画

<https://twitter.com/stonecold2050/status/1039170546179526656/photo/1>

この戯画で、ウィリアムズの態度の悪さは「黒人ならでは」なのだとして強調するためには、褐色の大坂では都合が悪かったようである。戯画の大坂は主審の白人男性と同じ肌色に描かれている。主審は大坂を呼び寄せ、「ウィリアムズに勝たせてやってくれないか？」とささやいているが、これがまた「大人げなく大騒ぎする黒人に眉をひそめる常識人の白人たち」という構図となり、上から目線の嗤いを誘うのだ。

## 人の女性の物語

9  民主党政権が失敗に終わった本当の理由～悪いのは「マニフェスト」ではない

10  AIが感情と意識を持つことは可能か

もっと見る

この戯画は、基本的にウィリアムズを嗤って描いたものであり、批判の声も彼女の描かれ方に注目したものが大勢であった。しかし今回改めて「大坂のホワイトウォッシュ」としてもよくわかる例と言えるだろう。

## 次は→白人が黒人に手を焼く話は差別主義者のお気に入り

先頭 前へ 1 2 3 4 5 次へ 末尾

### 関連記事



文化・エンタメ **浜田雅功「黒塗りメイク」論争を再考する——「ブラックフェイス」は、“忌まわしき過去の象徴”**

赤尾千波 2018年02月06日



文化・エンタメ **続・浜田雅功「黒塗りメイク」論争を再考する**

赤尾千波 2018年02月07日

### 筆者



**赤尾千波** (あかお・ちなみ) 富山大学人文学部人文学科教授(アメリカ文学・文化専攻)

津田塾大学学芸学部英文学科卒。筑波大学大学院修士課程地域研究科、インディアナ大学大学院を経て、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科途中退学。岐阜大学教育学部助手を経て現職。著書に『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ——『国民の創生』から『アバター』まで』（富山大学出版会）など。 **研究室HP**、 **アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ** 関連資料

※プロフィールは、論座に執筆した当時のものです

[ページトップへ戻る](#)

#### 朝日新聞社から

会社案内  
CSR報告書  
採用情報  
記事や写真利用案内  
新聞広告ガイド

#### デジタル事業から

デジタルサービス一覧  
携帯サービス  
Astand(コンテンツ販売)  
法人向け配信  
写真の購入案内  
記事データベース案内  
朝日ID

#### グループ企業

朝日新聞出版の本  
朝日新聞出版(AERA dot.)  
朝日インタラクティブ  
朝日学生新聞社

#### 各国語サイト (News in various languages)

The Asahi Shimbun Asia&Japan Watch (ENGLISH)  
Asahi Weekly (ENGLISH/JAPANESE)  
ハフポスト日本版 (JAPANESE)  
CNN.co.jp (JAPANESE)

[サイトマップ](#) | [サイトポリシー](#) | [利用規約](#) | [特定商取引](#) | [web広告ガイド](#) | [リンク](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [お問い合わせ](#)

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.